

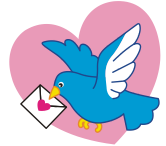
# 流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.5.25 NO.39



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/> メール：[info@nagareyama9.org](mailto:info@nagareyama9.org)

## 09 流山憲法集会

### 渡辺治さんを招いて講演会（その1）



平和憲法の意義、改憲論の狙い、市民の運動に求められている課題を明快に展開

5月16日、生涯学習センターにおいて、渡辺治さん（一橋大学教授）を招いて講演会を開催しました。テーマは「憲法『改正』は日本とアジアに何をもたらすか？」。講演は5つの「なぜ」に答える形で進められました。

第1の「なぜ」は、「改憲しないと日本とアジアの安全は守れないのか？」

これについての渡辺さんの回答は、次のように明快。北朝鮮の脅威が叫ばれるが、この国の経済力は東京の足立区と同程度と指摘。弱い経済力の中で米国の圧力に対抗する最も効果的な手段として、国民生活に極度の犠牲を強いながら核開発を行っている。しかし足立区が日本や韓国や米国を相手に戦争を起こせるはずがない。

北朝鮮が日本に反撃することがあり得るとすれば、それは日本が米国の北朝鮮攻撃に負担するとき。憲法「改正」の動きは、実はこの事と大いに関連している。つまり集団的自衛権の行使や先制攻撃が出来る国に変えるための憲法の「改正」だ。

中国の軍拡の脅威も指摘されているが、この動きに対抗する最も効果的な選択肢は、9条の原則をアジアに広げ、貫徹すること。9条を改正することは、かえってアジアの警戒心を高め、中国の軍拡に拍車をかけるだけ。

第2の「なぜ」は、「憲法9条は本当に役に立たないのか？」

この問いに対して渡辺さんは、「役に立たない憲

法を役に立つものに変える」とは民主党なども言っている議論だが、9条が本当に役に立っていないとすれば改憲の必要はないはず、と主張。9条が生きて力を発揮しているからこそ、彼らは改憲の必要を言い立てている。

憲法は敗戦直後はあまり力がなかったが、その後の国民の運動こそが力を与えた。その最も大きなものが60年安保の国民的大闘争。巨大な安保闘争を作り出したのは、革新政党の共闘、若い人々の立ち上がり、団体・組織が持つ力のなどの集合力。この闘争の後、自民党は改憲をおおっぴらに言えなくなり、自衛隊の装備や行動にも大きな制約が科せられてきた。しかし、アジアでの戦争の阻止には力を発揮できず、ベトナム侵略への負担も防げなかったという弱点もあった。

第3の「なぜ」は、「改憲の本当の理由は何か？」

渡辺さんの考察は、以下の通り。本当の狙いは、自衛隊の海外での武力行使を可能にすることと日本の軍事大国化だ。日本が軍事大国化をめざす要因のひとつは、冷戦終焉による自由市場の拡大と大競争時代の到来（グローバル化）により、「世界の警察官」としての米国の力に限界が見え、日本にもその負担を分担せよとの圧力を強めてきたこと。もうひとつは、日本自身が企業の多国籍化を推し進め、海外市場に大規模に進出した結果、進出先の国々の治安の維持に関心をもち始めたこと。

保守勢力は、当初は安保闘争の記憶もあって解釈改憲で対応しようとしたが、イラク派兵を通して改めて9条の制約を痛感し、米国と一緒に海外で戦争が出来る国をつくるべく本気で改憲をめざし始めた。任期中の改憲を公約する安倍政権が誕生し、民主党も巻き込む改憲草案を作り、改憲手続きの法律も作られた。しかし、安倍政権は、挫折した。



00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山・